慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

·	
Title	一九六六年上期 中国産業貿易半年報
Sub Title	
Author	平野, 絢子
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1967
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.60, No.2 (1967. 2) ,p.244(116)- 245(117)
JaLC DOI	10.14991/001.19670201-0116
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19670201-0116

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

態とは程遠いことを感ぜしめるのである。他とは程遠いことを感ぜしめるのである。生また監督組織については監督官がいないというからず、監督官がいないというかのは、どういう理由によるのであろうか。また、フランスと西ドイツでは、社会保険機関が助言的な監督の組織をもち、アメリカでは進んだ州とおくれた州との間の格差がいちじ進んだ州とおくれた州との間の格差がいちじるしい。全体としてみた場合、監督機構は、ヨーロッパ四国の場合、充分に整備された状態とは程遠いことを感ぜしめるのである。

問題に関心をよせ、その対策に力をいれてい間のているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。もちろんを国の労働組合の中央組織、たとえばイギリスのT・U・C・およびフランスのC・G・T・の如きは、このような労働災害が急激に増加し、イギリスやアメリカにおいても、ほぼ同じような現象を呈しているといわれる。もちろん各国の労働組合の中央組織、たとえばイギリスのT・U・C・およびフランスのC・G・T・の如きは、このような労働災害が急激に増加し、て、次第に、階級闘争のひとつとして安全闘争を考え、労働条件改善の闘争の一部として安全に、このような労働災害の頻発に直面して、次第に、階級闘争のひとつとして安全闘争を考え、労働条件改善の関争の一部としてのいるといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの関っているといわれる。また世界労連もこの

るといわれる。ところで、わが国の労働組合組織とくに総評はどうであろうか。最初に指摘したように、ボーナスの闘争や賃上げの闘争と同じような切実さと熱心さをもって真剣をにとりくんでいるであろうか。また職場の労働者ひとりひとりが、重要な問題として、これを意識的にとりあげ、闘いの主要目標としているであろうか。本書には、直接的には、日本のことはふれていない。しかしそれだからこそ、本書をよむことによって、われわれは、わが国における労働安全対策のいちじるしい立ちおくれを痛感するのである。(労働科学研究所出版部・昭和四一年六月刊・A5・三四九頁・一五〇〇円)

一飯 田 鼎

一九六六年上期

『中国産業貿易半年報』

大・深刻化してきた「文化大革命」の滲透にすすめられている。紅衛兵旋風につづいて拡し、作業効率を引上げる)の展開の中におしし、作業効率を引上げる)の展開の中におした "設計革命』(請負制度をやめ施工現場の集中・統一指 導を 実 施とした "設計革命』(請負制を立て、作業効率を引上げる)の展開の中におした。一九六六年から始まった中国経済の第三次一九六六年から始まった中国経済の第三次

よる対立・ 激化に 影響を うけてはいるものの三ヶ年の準備期間を経、他方核実験に示される技術水準の向上を支えとし、技術革命を「大躍進へおしすすめる起爆力の役割を果すもの」として打ち出したことは、中国経済の社会主義的発展途上における第三次五ヶ年計画の意義づけとしてまことに意味深長なものがある。そこでこの「計画」実現の土台となるべき中国経済の実態とその問題点を具体的に扱った本書の今日的価値は当然高く評価されるべきであろうと考える。

の首位を許してきた石油も基本的に自給にこの首位を許してきた石油も基本的に自給にこの首位を許してきた石油も基本的に自給にこの 他地区の 農村電化規模の 発展は 著しく、 消費量は人民公社設立の前年である一九五七備生産の自給である。一九六五年の農村電力の発展を支える重電機生産部門、発電附属設 プラウによる深耕と肥効の結合、 N 年の二五倍となり K タ、 f立と下くに、により、エネルギーバランス構成上石炭にまだそ、エネルギーバランス構成上石炭に丸五%に達も拘らず、一九六五年には遂に九五%に達 中国σ錐材品種自経率は、その後進的性格 中国の鋼材品種自給率は、その後進的性 排水の電化による水干害のカバー、 珠江デルタ、華北平原、 (三三億KW)、 、 黄河中下流其 W)、 楊子江デ 脱穀、 電動 灌

済の歴史的変貌を招かずにはおくまい。 いる。この変化、緩慢ではあるが、今に中国経いエネルギーと純所得とを農村に吹きこんでいエネルギーと純所得とを農村に吹きこんでいる。 この変化、緩慢ではあるが、今に中国経いる。 この変化、緩慢ではあるが、今に中国経いの他、農産物加工生産の電化による人民公社の他、農産物加工生産の電化による人民公社

本書は確かに一つの資料年報の形式をとってはいるものの、構造分析の手法をもって第三次五ケ年計画を迎えた中国経済を、各生産部門の具体的分析から資料的に、又国民経済的見地から理論的に検討している点で、本年出版された中国経済に関する学術書の中で一出版された中国経済に関する学術書の中で一切る。経済、貿易分析にとどまらず、プロレタリア文化大革命の分析も中国の社会主義革命の新段階として措定し、地道な展開をなしている。これだけの着実な経済的論理を背景にもった資料の出版を心から喜びとするものである。(亜細亜通信社・一九六六年 九 月刊・ある。(亜細亜通信社・一九六六年 九 月刊・ある。(亜細亜通信社・一九六六年 九 月刊・ある。(亜細亜通信社・一九六六年 九 月刊・ある。(亜細亜通信社・一九六六年 九 月刊・ある。(亜細亜通信社・一九六六年 九 月刊・

—平野絢子

日本リサーチセンター編

『10年後の国民生活』

戦後の日本経済は驚異的な発展をとげてき

新刊紹介

た。今後長期的な観点にたつとき、一〇年後の国民生活がどうなるかということはだれしも考えるところであろう。日本リサーチセンターは一〇人の執筆者を動員して広い範囲でこの問題に答えようとしている。大きく第1部にわけて、まず第1部では国民生活を規定する諸条件を述べる。その特徴として社会的な価値観の推移にふれる。大きく第1部を規定する諸条件を述べる。その特徴として社会的な価値観の推移にふれる。本書の特色といってもよいであろう。そして結論的に九つの価値を抽出する。(1)アベレージ・ライフへの欲求、(2)物質生活充足への意欲、(3)楽しみへの積極的志向、(4)安定への欲求、(5)家庭生活の尊重、(6)女性の役割の増大、(7)養育の重視、(8) 簡便さの尊重、(9)個性化、である。これらの社会的価値の変化と共に、それをめぐる環境として、労働力の不足、都市への人口集中、モータリゼーション、道路、技術革制の延長と年金、労働時間の短縮、教育問題がとりあげられる。さてこれらを条件として、定年制の延長と年金、労働時間の短縮、教育問題がとりあげられる。さてこれらを条件として、定年制の延長と年金、労働時間の短縮、教育問題がとりあげられる。さてこれらを条件として、の重にとのような予測が行なわれるであるうか。それが第日部、一〇年後の国民生活、との、公司、経済成長率は昭和四〇十四五年、七%、四五年十五〇年、八・五%と考えられる。そして消費構造について、食生活、衣生活、住

来事情、家具・耐久財、光熱費、医療・保健 と事情、家具・耐久財、光熱費、医療・保健 と、過去の資料から将来の方向づけを行 なうもので勿論決定的なことは言えないが、 大体の傾向は知ることができる。複雑な方程 式等を使うことなく、誰にでも容易に日本経 式等を使うことなく、誰にでも容易に日本経 対の現実と将来をみることができる。複雑な方程 する現実と将来をみることができる。で、資 新報社・昭和四一年六月刊・A5・三七〇頁・ 一五〇〇円)

--佐藤保-

木下尚江編

『田中正造の生涯』(復刻版)

を与えたにちがいない。
ない、数字の人に驚愕の念とりあげられたことは、多くの人に驚愕の念とりあげられた。それだけに突如として国会ではいわゆる足尾鉱毒事件について知る人もとりあげられた。それだけに突如として国会でとりあげられた。それだけに突がとりあげられた。今日端を発する鉱毒問題がとりあげられた。今日端を発する鉱毒問題がとりあげられた。今日

七七(明治一〇)年のことである。それ以後の払い下げをうけて、再び開坑したのは一八古河市兵衛が、閉山になっていた足尾銅山